

課題対応取組み報告書

名称	旭区東部地域包括支援センター
提出日	令和6年6月25日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等 <input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設 (居場所づくり等) <input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	経済的課題を抱えたケースへの対応力向上を目指す!	
地域ケア会議から 見えてきた課題	経済的課題(生活困窮・債務の発生・金銭管理が出来ない)により、生活に大きな支障が発生している。	
対象	旭区東部地域包括支援センター (以下「包括」という) 圏域内の介護支援専門員	
地域特性	圏域内に大阪3大商店街とも呼ばれる「千林商店街」があり、それに連動する京阪沿線から発展してきた歴史がある。 圏域内の高齢化率は上昇傾向にある。 地域の民生委員や地域活動協議会による見守り活動が積極的に行われており、包括と連携が取れている。	
活動目標	介護支援専門員・区内の包括・総合相談窓口(ランチ)を対象に、経済的課題発生時の対応や活用できる相談窓口について学び、経済的課題を抱えたケース発生時の対応力向上を図る。	
活動内容 (具体的取組み)	○経済的な課題が発生した際に、地域ケア会議や「つながる場」なども活用し、多職種連携により対応する。 ○くらし相談窓口(大阪市生活困窮者自立相談支援事業)、区内包括と連携し、経済的課題を抱えたケースの対応について勉強会を実施。区内の包括・介護支援専門員等が参加し、経済的課題を抱えたケースが発生した際に活用できる相談窓口についての理解や、対応方法について学び、対応力向上を図る。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	○経済的な課題が発生した際に、地域ケア会議や「つながる場」を活用して連携できた。 ○くらし相談窓口、区内包括と連携して、経済的課題を抱えたケースの対応について勉強会を実施できた。 事前アンケートにより、経済的課題を抱えて対応に苦慮している現状が明らかとなった。研修後アンケートでは、全参加者から研修が「役に立った」との意見があり、対応方法や相談機関については、9割以上の参加者から「理解できた」との回答を得た。	
今後の課題	○経済的な課題は認知症、精神疾患、ひとり暮らし、家族関係など、様々な要因から発生しており、今後もこの課題に対しては、多職種連携で対応していく必要があるため、くらし相談窓口との連携、「つながる場」の活用に留意しながら対応していく必要がある。 ○経済的課題を抱えたケースへの対応方法について不安や不明点があっても、適切な専門機関に繋がることで望ましい支援が行えると考えられるため、包括が介護支援専門員から相談を受けた際には、速やかに専門機関と連携する必要がある。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和6年7月24日 (水)	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性 <input checked="" type="checkbox"/> 専門性 <input checked="" type="checkbox"/> 独自性	
評価できる項目(特性) についてのコメント	・地域診断に基づいて経済的な課題に着目し、介護支援専門員が経済的課題を抱えたケースの対応に苦慮しているという現状も把握したうえで介護支援専門員や包括職員等の対応力向上のための勉強会を開催された。包括職員は勉強会で得た知識を活かして経済的な課題を抱えた支援困難ケースの対応をされており、「継続性」や「浸透性・拡張性」「専門性」のある活動であると評価できる。 ・多くの地域住民や関係機関と連携し、問題解決に向けてPDCAサイクルを回しながら「つながる場」を含めた地域ケア会議を開催されている。支援困難ケースについては区を超えて「つながる場」を複数回開催するなど、課題解決に向けた関係機関との連携やネットワークの構築にも努められており、取組みは評価項目すべてに該当すると考える。 今後も引き続き地域に根差した活動を発展させていきたい。	
* 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。		